



## ライセンス

- [Cisco ISE ライセンス \(1 ページ\)](#)
- [Cisco ISE スマート ライセンス \(6 ページ\)](#)
- [エアギャップ ネットワークのスマート ライセンス \(11 ページ\)](#)

## Cisco ISE ライセンス

Cisco ISE サービスは、ネットワーク内の増加するエンドポイントの可視性と制御を提供します。Cisco ISE 機能は特定のライセンスにマッピングされ、組織のニーズを満たすために必要な Cisco ISE 機能を提供するライセンスを有効にできます。

Cisco ISE は、次の主要な機能を持つライセンスメカニズムにバンドルされています。

- **組み込みライセンス**：Cisco ISE には、90 日間有効な組み込みの評価ライセンスが付属しています。Cisco ISE のインストール直後に Cisco ISE ライセンスをインストールする必要はありません。Cisco ISE のすべての機能が提供される評価ライセンスを使用できます。
- **ライセンスの集中管理**：Cisco ISE プライマリ管理ノード (PAN) は、Cisco ISE ライセンスを集中管理します。プライマリ PAN とセカンダリ PAN がある分散展開では、プライマリ PAN は自動的にセカンダリ PAN とライセンス情報を共有します。
- **同時アクティブエンドポイント数**：Cisco ISE ライセンスには、各階層ライセンスのカウント値が含まれます。各階層ライセンスでは、いつでも特定の数のアクティブエンドポイントがサポートされます。カウント値は、いつでも特定の Cisco ISE サービスを使用している展開全体のアクティブエンドポイントの数を指します。Cisco ISE ライセンスは RADIUS アカウンティングに依存しているため、ネットワークデバイスで RADIUS サービスを有効にする必要があります。

同時アクティブエンドポイント数は、サポートされるユーザーとデバイスの総数を指します。ここで、エンドポイントとは、ユーザー、PC、ラップトップ、IP 電話、スマートフォン、ゲームコンソール、プリンタ、ファクス機、またはその他のネットワークデバイスを意味します。

Cisco ISE リリース 3.0 以降のリリースでは、Cisco ISE リリース 2.x で使用されていたレガシーライセンス (Base、Plus、Apex ライセンスなど) はサポートされていません。Cisco ISE リリー

ス 3.x ライセンスは、Cisco Smart Software Manager (CSSM) と呼ばれる集中型データベースを介して完全に管理されます。単一のトークン登録で、すべてのライセンスを簡単かつ効率的に登録、アクティブ化、および管理できます。

お客様の経済性を最大化するために、Cisco ISE のライセンスは次のパッケージで提供されます。

#### • 階層ライセンス

Cisco ISE リリース 3.0 以降、階層ライセンスと呼ばれる新しいライセンスのセットが、リリース 3.0 以前のリリースで使用されていた Base、Apex、および Plus ライセンスに置き換わります。階層ライセンスには、Essentials、Advantage、Premier の 3 つのライセンスが用意されています。

現在、Base、Apex、または Plus ライセンスがある場合は、CSSM を使用して新しいライセンスタイプに変換します。

#### • デバイス管理ライセンス

TACACS+ ペルソナが有効になっているポリシーサービスノード (PSN) では、デバイス管理ライセンスが使用されます。

#### • 仮想アプライアンスのライセンス

仮想アプライアンスライセンスは、小規模 VM、中規模 VM、大規模 VM の 3 つの形式で使用できます。

仮想アプライアンスが使用されているものの、Cisco ISE にアクティブな VM ライセンスがない場合、VM ライセンスを入手してインストールするまで、非準拠ライセンスの使用に関する警告と通知が表示されます。ただし、Cisco ISE サービスは中断されません。

#### • 評価ライセンス

評価ライセンスは、Cisco ISE リリース 3.0 を初めてインストールしたときにデフォルトで有効になります。評価ライセンスは、すべての Cisco ISE 機能にアクセスできる 90 日間ライセンスです。評価期間中、CSSM にライセンスの使用は報告されません。

既存のスマートライセンスを使用して Cisco ISE リリース 3.0 にアップグレードする場合、スマートライセンスは Cisco ISE の新しいライセンスタイプにアップグレードされます。ただし、Cisco ISE リリース 3.0 でライセンスをアクティブ化するには、CSSM で新しいライセンスタイプを登録する必要があります。

従来の Cisco ISE ライセンスを所有している場合は、それらをスマートライセンスに変換して、Cisco ISE リリース 3.0 でのライセンスの使用を有効にする必要があります。Cisco ISE 2.x ライセンスを新しいライセンスタイプに変換するには、<http://cs.co/scmswl> で Support Case Manager を通じてオンラインでケースを開くか、<http://cs.co/TAC-worldwide> に記載されている連絡先情報を使用します。

すべてのアクティブな Cisco ISE ライセンスについて、ライセンスの有効期限に関する通知が、期限切れの 90 日前、60 日前、および 30 日前に Cisco ISE に表示されます。非準拠ライセンスの消費に関する通知も Cisco ISE に表示されます。ライセンスの使用が 60 日の期間のうち 45

日間にわたってコンプライアンスに違反している場合は、必要なライセンスを購入してアクティブ化するまで、Cisco ISE のすべての管理制御が失われます。

あるライセンスパッケージから別のライセンスパッケージにアップグレードする場合、Cisco ISEはアップグレード以前のパッケージで使用できたすべての機能を提供し続けます。ただし、設定済みの設定は再設定する必要があります。たとえば、現在、Essentials ライセンスを使用していて、その後に Advantage ライセンスを追加した場合、Essentials ライセンスを使用せずに設定されている機能は変更されません。

次の場合は、ライセンス契約を更新する必要があります。

- 評価期間が終了し、まだライセンスを登録していない。
- ライセンスの有効期限が切れている。
- エンドポイントの使用がライセンス契約を超える。

#### Cisco ISE コミュニティリソース

#### Cisco Identity Services Engine 注文ガイド

評価版ライセンスを入手する方法については、[How to Get ISE Evaluation Licenses](#) を参照してください。

## 階層ライセンス

次の表に、新しい階層ライセンスで有効になるものを示します。

表 1: Cisco ISE 階層ライセンス

ライセンス名	このライセンスで有効になるもの
<b>Essentials</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• RADIUS 認証、許可、およびアカウントインテグレーション (802.1X、MAC 認証バイパスと Easy Connect、Web 認証を含む)</li> <li>• MACsec。</li> <li>• シングルサインオン (SSO)、セキュリティアサーションマークアップ言語 (SAML)、およびオープンデータベースコネクティビティ (ODBC) 標準に基づく認証。</li> <li>• ゲストアクセスとスポンサーサービス</li> <li>• モニタリング目的の Representational State Transfer (REST) API、および CRUD 操作の外部 RESTful サービス API。</li> <li>• パッシブ ID サービス。</li> <li>• セキュアな有線およびワイヤレスアクセス。</li> </ul>
<b>Advantage</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco ISE Essentials ライセンスで有効になっているすべての機能。</li> <li>• 組み込みの認証局を使用した個人所有デバイスの持ち込み (BYOD) デバイス登録とプロビジョニング。デバイスの登録は、設定済みのデバイスポータルを介して行われます。</li> <li>• セキュリティグループタギング、TrustSec、および Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) の統合。</li> <li>• 基本的なアセットの可視性および適用機能を含むプロファイリングサービス。</li> <li>• フィードサービス。</li> <li>• コンテキスト共有 (pxGrid など)、およびセキュリティエコシステムの統合。</li> <li>• Rapid Threat Containment (適応型ネットワーク制御とコンテキスト共有サービスを使用)。</li> </ul>

ライセンス名	このライセンスで有効になるもの
<b>Premier</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco ISE Essentials および Advantage ライセンスで有効になっているすべての機能。</li> <li>• ポスチャの可視性とエンフォースメント。</li> <li>• 企業モビリティ管理とモバイルデバイス管理によるコンプライアンスの可視性とエンフォースメント。</li> <li>• 脅威中心型ネットワークアクセスコントロールの可視性とエンフォースメント。</li> </ul>

## デバイス管理ライセンス

デバイス管理ライセンスでは、ポリシーサービスノードでTACACSサービスを使用できます。高可用性スタンドアロン展開では、デバイス管理ライセンスによって、高可用性ペアの1つのポリシーサービスノードでTACACSサービスの使用が許可されます。

## 仮想アプライアンスのライセンス

Cisco ISE は、仮想アプライアンスとしても販売されています。ネットワーク内の VM ノードの数と各 VM ノードの CPU やメモリなどのリソース仕様に基づいて、仮想マシン (VM) ライセンスを選択します。VM ライセンスには、小規模 VM、中規模 VM、大規模 VM の3つのカテゴリがあります。

次の表は、VM 最小リソースをカテゴリ別に示しています。

表 2: カテゴリ別の VM 最小リソース

VM ライセンス	VM ノードの RAM 容量	VM ノードの CPU の数
小規模 VM	16 GB	12 個の CPU
中規模 VM	64 GB	16 個の CPU
大規模 VM	256 GB	16 個の CPU

たとえば、16 個の CPU と 64 GB の RAM を搭載した 3595 相当の VM ノードを使用している場合、この VM ノードで Cisco ISE サービスを有効にするには、中規模 VM ライセンスが必要です。小規模 VM ライセンスのみが登録およびアクティブ化されている場合でも、Cisco ISE は VM ノードによる中規模 VM ライセンスの消費を登録します。これは、使用されるライセンスが VM ノードの RAM および CPU の仕様によって決定されるためです。

必要な VM ライセンスを調達してインストールするまで、非準拠ライセンスの消費に関する警告と通知を受け取ります。ただし、Cisco ISE サービスは中断されません。

展開内の VM とそのリソースの数に基づいて、複数の VM ライセンスをインストールできます。

VM ライセンスはインフラストラクチャライセンスです。このため、展開で使用可能なエンドポイントライセンスに関係なく、VM ライセンスをインストールできます。ただし、階層ライセンスで有効になっている機能を使用するには、適切な階層ライセンスもインストールする必要があります。

Cisco ISE リリース 2.4 以降のリリースのインストールまたはアップグレードの後、展開済みの VM ノードの数とインストール済みの VM ライセンスの数の間に不一致がある場合、アラームが 14 日ごとに **ホーム** ページの [アラーム (Alarms)] ダッシュレットに表示されます。アラームは、VM ノードのリソースに変化がある場合や、VM ノードが登録または登録解除されるときにも表示されます。

VM ライセンスは永続ライセンスです。VM ライセンスの変更は、Cisco ISE GUI にログインするたびに表示され、ダイアログボックスで [このメッセージを再度表示しない (Do not show this message again)] チェックボックスをオンにすると表示されなくなります。

## 評価ライセンス

評価ライセンスは、Cisco ISE リリース 3.0 をインストールまたはアップグレードすると、デフォルトでアクティブ化されます。評価ライセンスは 90 日間有効で、この期間中は Cisco ISE のすべての機能にアクセスできます。評価ライセンスが使用されている場合、Cisco ISE は評価モードであると見なされます。

Cisco ISE 管理ポータルの上隅に、評価モードの残り日数を示すメッセージが表示されます。Cisco ISE の必要な機能を引き続き使用するには、評価モードの終了日 (90 日) までに購入した Cisco ISE ライセンスを登録する必要があります。

## Cisco ISE スマート ライセンス

Cisco ISE の管理ポータルでスマートライセンストークンがアクティブになっており、登録されている場合は、CSSM が各エンドポイントセッションによってライセンスの消費を製品ライセンスごとにモニターします。スマートライセンスでは、Cisco ISE のシンプルな表レイアウトでエンドポイントセッションによるライセンスの消費が管理者に通知されます。スマートライセンスは、有効な各ライセンスのピーク使用量を集中型データベースに毎日レポートします。ライセンスが使用できる状態で消費されていない場合、使用可能なライセンスについて管理者に通知され、使用量のモニターを継続できます。消費量が使用可能なライセンスの数を超えると、アラームが起動し、アラームと通知によって管理者に通知されます。

スマートライセンスでは、Essentials、Advantage、Premier、または Device Admin などの、シスコのスマートアカウントを介して含まれているさまざまなライセンス権限を管理することもできます。Cisco ISE から、ライセンス権限ごとの基本的な消費統計情報をモニターできます。CSSM アカウントから、追加情報、統計情報、通知を表示したり、アカウントや権限に変更を加えたりできます。



(注) CSSM サテライトは、Cisco ISE リリース 3.0 パッチ 1 以前、ではサポートされていません。

Cisco ISE はライセンス消費の内部サンプルを 30 分ごとに取得します。ライセンスのコンプライアンスと消費がそれに応じて更新されます。Cisco ISE の [ライセンス (Licenses) ] テーブルにこの情報を表示するには、メインメニューから [管理 (Administration) ] > [システム (System) ] > [ライセンス (Licensing) ] を選択し、[更新 (Refresh) ] をクリックします。

Cisco ISE プライマリ管理ノード (PAN) を CSSM に登録した時点から、Cisco ISE は 6 時間ごとにライセンス消費のピークカウントを CSSM サーバーに報告します。ピークカウトレポートは、Cisco ISE でのライセンス消費が購入および登録されたライセンスに準拠していることを確認するのに役立ちます。Cisco ISE は、CSSM 証明書のローカルコピーを保存することで、CSSM サーバーと通信します。CSSM 証明書は、日常の同期中と [ライセンス (Licenses) ] テーブルの更新時に自動的に再認証されます。通常、CSSM 証明書の有効期間は 6 ヶ月です。

Cisco ISE が CSSM サーバーと同期したときにコンプライアンスステータスに変更があった場合、[ライセンス (Licenses) ] テーブルの [最後の認証 (Last Authorization) ] 列がそれに応じて更新されます。また、権限がコンプライアンスを満たさなくなった場合には、コンプライアンス外となっている日数が [コンプライアンス外の日数 (Days Out of Compliancy) ] 列に表示されます。コンプライアンス違反は、[ライセンス (Licensing) ] 領域の上部にある [通知 (Notifications) ] と、[ライセンス警告 (License Warning) ] リンクの横にある Cisco ISE ツールバーにも表示されます。通知に加えて、アラームも確認できます。



(注) Device Admin ライセンスは Cisco ISE が CSSM サーバーと通信したときに承認されますが、セッションベースではないため、[ライセンス (Licenses) ] テーブルにはライセンスの消費数は関連付けられません。

[ライセンス (Licenses) ] テーブルのコンプライアンスの列には、次のいずれかの値が表示されます。

- [コンプライアンス (In Compliance) ] : このライセンスの使用はコンプライアンスに準拠しています。
- [リリースされた権限 (Release Entitlement) ] : ライセンスは、購入され、使用するためにリリースされましたが、この Cisco ISE 展開ではまだ使用されていません。このようなシナリオでは、ライセンスの [消費数 (Consumption Count) ] は 0 です。
- [評価 (Evaluation) ] : 評価ライセンスを使用できます。

## スマートライセンスの登録とアクティブ化

### 始める前に

- 従来の Cisco ISE ライセンスがある場合は、スマートライセンスに変換する必要があります。
- 既存のスマートライセンスを使用して Cisco ISE リリース 3.0 にアップグレードする場合は、CSSM でライセンスを新しいスマートライセンスタイプに変換します。
- 登録トークンを受信するには、新しいスマートライセンスタイプを CSSM に登録します。

**ステップ 1** Cisco ISE GUI で、[メニュー (Menu) ] アイコン (☰) をクリックして、[管理 (Administration) ] > [システム (System) ] > [ライセンス (Licensing) ] を選択します。

**ステップ 2** 表示される [ライセンス (Licensing) ] ウィンドウで、[登録の詳細 (Registration Details) ] をクリックします。

**ステップ 3** 表示される [登録の詳細 (Registration Details) ] 領域に、CSSM から [登録トークン (Registration Token) ] フィールドで受信した登録トークンを入力します。

**ステップ 4** [接続方式 (Connection Method) ] ドロップダウンリストから接続方式を選択します。

- インターネットへの直接接続を設定している場合には、[直接 HTTPS (Direct HTTPS) ] を選択します。
- インターネットへの直接接続がなく、プロキシサーバーを使用する必要がある場合には、[HTTPS プロキシ (HTTPS Proxy) ] を選択します。(Cisco ISE スマートライセンスの登録後にプロキシサーバーの設定を変更した場合は、[ライセンス (Licensing) ] ウィンドウでスマートライセンスの設定を更新する必要があります。Cisco ISE は、更新されたプロキシサーバーを使用して CSSM との接続を確立し、Cisco ISE サービスの中断を回避します)。
- **トランスポートゲートウェイ**は推奨される接続方式です。トランスポートゲートウェイを設定している場合、この接続がデフォルトで選択されます。別の接続方法を選択するには、トランスポートゲートウェイの設定を削除する必要があります。
- 設定済みの SSM オンプレミスサーバーに接続する **SSM オンプレミスサーバー**。このオプションは、Cisco ISE リリース 3.0 パッチ 2 以降で使用できます。[エアギャップネットワークのスマートライセンス \(11 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 5** [階層 (Tier) ] 領域と [仮想アプライアンス (Virtual Appliance) ] 領域で、有効にする必要があるすべてのライセンスのチェックボックスをオンにします。選択したライセンスがアクティブ化され、その使用量が CSSM によって追跡されます。

**ステップ 6** [登録 (Register) ] をクリックします。

## Cisco ISE でのスマートライセンスの管理

スマートライセンストークンをアクティブ化して登録すると、Cisco ISE のライセンス権限を次の方法で管理することができます。



- ライセンス権限資格証明書の有効化、無効化、および更新。
- スマート ライセンスの登録の更新。
- 準拠および非準拠ライセンスの問題の特定。

### 始める前に

スマートライセンストークンをアクティブ化して登録していることを確認します。

- 
- ステップ 1** (任意) 初めて Cisco ISE リリース 3.0 をインストールした場合は、すべてのライセンス権限が評価モードの一部として自動的に有効になります。ライセンストークンを登録すると、CSSM アカウントに特定の権限が含まれず、登録時にそれらを無効にしていなかった場合は、非準拠通知が Cisco ISE に表示されます。それらの権限を CSSM アカウントに追加し (サポートが必要な場合は、CSSM アカウント担当者にお問い合わせください)、[ライセンス (Licenses)] テーブルの [更新 (Refresh)] をクリックし、非準拠通知を削除して、関連機能を使い続けます。承認を更新したらログアウトして、関連する非準拠メッセージを削除するために Cisco ISE に再度ログインします。
- ステップ 2** (任意) 日次の自動承認が何らかの理由で成功しない場合、非準拠メッセージが表示されることがあります。[更新 (Refresh)] をクリックして権限を再承認します。承認を更新したら、ログアウトして、関連する削除する非準拠メッセージのために Cisco ISE に再度ログインします。
- ステップ 3** (任意) 初めて Cisco ISE リリース 3.0 をインストールした場合は、すべてのライセンス権限が評価期間の一部として自動的に有効になります。トークンを登録すると、CSSM アカウントに特定の権限が含まれず、登録時にそれらを無効にしていなかった場合は、不必要な非準拠通知を回避するために、ISE のスマートライセンスからそれらの権限を無効のままにすることができます。[ライセンス (Licenses)] テーブルから、トークンに含まれていないライセンス権限のチェックボックスをオンにし、ツールバーから [無効化 (Disable)] をクリックします。ライセンス権限を無効にした後、ログアウトしてから Cisco ISE にもう一度ログインし、メニューから関連機能を削除したり、非準拠メッセージを削除します。
- ステップ 4** (任意) アカウントに権限を追加したら、追加した権限を有効にします。[ライセンス (Licenses)] テーブルから、無効化された必要なライセンスのチェックボックスをオンにし、ツールバーから [有効化 (Enable)] をクリックします。
- ステップ 5** (任意) 登録証明書は 6 ヶ月ごとに自動的に更新されます。手動でスマートライセンス証明書の登録を更新するには、[ライセンス (Licenses)] ウィンドウの上部にある [登録の更新 (Renew Registration)] をクリックします。
- ステップ 6** (任意) Cisco ISE ボックス登録 (UDI により示されます) をスマートアカウントから削除する一方で、評価期間の終了までスマートライセンスを引き続き使用するには、[Cisco スマートライセンス (Cisco Smart Licensing)] 領域の上部にある [登録解除 (Deregister)] をクリックします。たとえば、登録プロセスの一環として示した UDI を変更する必要がある場合に、これを行うことができます。まだ評価期間の残り時間が有効な場合は、Cisco ISE にスマートライセンスが引き続き適用されます。評価期間の終了時点である場合は、ブラウザを更新したときに通知が表示されます。スマートライセンスの登録を解除したら、同一または別の UDI で登録するために登録プロセスを再度実行できます。
- ステップ 7** (任意) Cisco ISE ボックス登録 (UDI により示されます) をスマートアカウントから完全に削除し、従来のライセンスに戻すには、[Cisco スマートライセンス (Cisco Smart Licensing)] 領域の上部にある [無効化 (Disable)] をクリックします。たとえば、登録プロセスの一環として示した UDI を変更する必要がある

場合に、これを行うことができます。スマートライセンスを無効にしたら、同一または別の UDI でアクティブ化および登録するために登録プロセスを再度実行できます。

## 登録解除されたライセンスの使用

### 問題

エンドポイントライセンスの使用は、エンドポイントが一致する認証ポリシー内に使用される属性に依存します。

システムに Cisco ISE の Essentials ライセンスのみが登録されているシナリオを検討します (90 日間の評価ライセンスは削除しました)。対応する Cisco ISE の Essentials メニュー項目と機能を表示および設定できます。

Advantage ライセンスを必要とする機能 (Session:PostureStatus 属性を使用している場合など) を使用するための認証ポリシーを設定し、エンドポイントがこの認証ポリシーに一致した場合は、次のようになります。

- エンドポイントでは、Cisco Advantage ライセンスがシステムに登録されていないにもかかわらず、Cisco ISE Advantage ライセンスが使用されます。
- ログインするたびに、非準拠ライセンスの使用の通知が表示されます。
- Cisco ISE に「許可されたライセンス使用量を超えています (Exceeded license usage than allowed)」という通知とアラームが表示されます。これは、Cisco ISE の CSSM に Cisco ISE Advantage ライセンスがないにもかかわらず、エンドポイントがそのライセンスを使用しているためです。



(注) ライセンスアラームは、必要なライセンスを登録してライセンスの問題を修正した場合でも、非準拠ライセンスが最初に使用されてから約 60 日間表示されます。

3 階層のすべてのライセンスが使用され、60 日の期間のうち 45 日間にわたってコンプライアンスに違反する場合は、正しいライセンスを登録するまで、Cisco ISE の管理制御が失われます。正しいライセンスが登録されるまでは、Cisco ISE の管理ポータル [ライセンス (Licensing)] ウィンドウにのみアクセスできます。ただし、Cisco ISE では引き続き認証が処理されます。

### 考えられる原因

認証ポリシーの設定が原因で、[ライセンス (Licensing)] テーブルに、購入していないのに登録したライセンスを Cisco ISE が使用したことが報告されます。、Advantage ライセンスまたは Premier ライセンスを購入するまでは Cisco ISE 管理ポータルにはそのライセンスが適用される機能は表示されません。ただし、これらのライセンスを購入すると、ライセンスが期限切れになったり、ライセンスのエンドポイントの消費が設定された制限を超えたりしても、ライセン

スによって有効になっている機能が引き続き表示されます。そのため、有効なライセンスがない場合でも、機能を設定できます。

### ソリューション

Cisco ISE の管理ポータルで、[メニュー (Menu) ]アイコン (☰) をクリックし、[ポリシー (Policy) ]>[ポリシーセット (Policy Sets) ]を選択し、登録済みライセンスがない機能を使用している認証ルールを特定してそのルールを再設定します。

## エアギャップネットワークのスマートライセンス

エアギャップネットワークでは、セキュリティで保護されたネットワークと外部ネットワーク間の通信は許可されません。Cisco ISE スマートライセンスでは、Cisco ISE を CSSM と通信させる必要があります。ネットワークがエアギャップである場合、Cisco ISE はライセンスの使用状況を CSSM に報告できず、この報告がないと、Cisco ISE への管理アクセスが失われ、Cisco ISE 機能が制限されます。

エアギャップネットワークでのライセンスの問題を回避し、Cisco ISE の全機能を有効にするには、Smart Software Manager (SSM) オンプレミスサーバーを設定します。このライセンス方式は、Cisco ISE リリース 3.0 パッチ 2 以降のリリースで使用できます。

SSM オンプレミスサーバーを設定し、Cisco ISE がこのサーバーに到達できるようにします。このサーバーは、エアギャップネットワーク内での CSSM のルールを引き継ぎ、必要に応じてライセンス権限を解放し、使用状況メトリックを追跡します。SSM オンプレミスサーバーは、ライセンスの消費と有効性に関連する通知、アラーム、および警告メッセージも送信します。

## スマートライセンス用の Smart Software Manager オンプレミスの設定

### 始める前に

SSM オンプレミスサーバーを設定し、Cisco ISE がこのサーバーに到達できることを確認します。詳細については、「[Smart Software Manager On-Prem Resources](#)」を参照してください。

Cisco ISE 3.0 以降でライセンスを正常に登録するには、SSM オンプレミスリリース 8-202108 以降に更新する必要があります。

ライセンスを追加購入するか、購入したライセンスを変更する場合は、SSM オンプレミスサーバーを CSSM に接続し、ローカルサーバーで変更内容を使用できるようにする必要があります。



(注) ISE-PIC 2.7 以前ではスマートライセンスはサポートされていません。

- 
- ステップ 1** Cisco ISE GUI で [メニュー (Menu) ] アイコン (☰) をクリックして、[管理 (Administration) ] > [システム (System) ] > [ライセンス (Licensing) ] を選択します。
- ステップ 2** [登録の詳細 (Registration Details) ] をクリックします
- ステップ 3** 表示される [登録の詳細 (Registration Details) ] 領域に、CSSM から [登録トークン (Registration Token) ] フィールドで受信した登録トークンを入力します。
- ステップ 4** [接続方式 (Connection Method) ] ドロップダウンリストから [SSM オンプレミスサーバー (SSM On-Prem Server) ] を選択します。
- SSM オンプレミスポータル の [証明書 (Certificates) ] に、接続されている SSM オンプレミスサーバーの IP アドレスまたはホスト名 (あるいは FQDN) のいずれかが表示されます。
- ステップ 5** 設定した IP アドレスまたはホスト名 (あるいは FQDN) を [SSM オンプレミスサーバーホスト (SSM On-Prem server Host) ] フィールドに入力します。
- ステップ 6** [階層 (Tier) ] 領域と [仮想アプライアンス (Virtual Appliance) ] 領域で、有効にする必要があるすべてのライセンスのチェックボックスをオンにします。選択したライセンスがアクティブ化され、その使用量が CSSM によって追跡されます。
- ステップ 7** [登録 (Register) ] をクリックします。
- (注) Cisco ISE を SSM On-Prem サーバーに登録するときに、ポート 443 と ICMP 通信に使用されるポートが開いていることを確認します。
-